

## ■ ドル/円の月足「雲」に要注目！

先週7日の米軍によるシリア空爆を一つの契機に、足下の市場では朝鮮半島や中東などの地政学的リスクに対する警戒が強まっている。北朝鮮が月内に複数の重要イベント（記念日）を予定しているうえ、本日（13日）重大発表をすることで外国人記者に対し「大きな出来事に備えよ」などと通達したことも警戒姿勢が強まる要因となっており、誰もがリスク過敏と言える状態になっている。

そこへ、米ウォール・ストリート・ジャーナル紙のインタビューに応えた米大統領の「ドルは強すぎる」、「低金利姿勢は好ましい」などの発言が昨日（12日）伝わり、ほどなくドル/円は109円の水準をも割り込む展開へ。ドル高けん制も低金利志向も今に始まったことではなく、ことさら材料視するのどうかとは思いますが、あまりのリスク過敏状態が続くなかで、米債買いとドル売りが同時進行してしまうのは致し方ないことと言わざるを得ないのだろう。

ここで、あらためて注目しておきたいのはドル/円の月足チャートである。下図でも確認できるように、ドル/円の月足ロウソクは今年1月に31カ月線を下抜け、同時に月足の遅行線が26カ月前の月足ロウソクが位置する水準を下抜けるという弱気の展開となっている。

そして現在は、まさに一目均衡表の月足「雲」上限を下抜けるか否かの瀬戸際にある。この「雲」上限は109.00円に位置しており、執筆時点では同水準を下抜けてしまっている。焦点となるのは、月末時点（終値）で「雲」のなかに潜り込む格好となるかどうかだ。



振り返れば、2016年4月に月足ロウソクは31カ月線を下抜け、その後は6月のブレグジット・ショック後につけた100円割れの水準まで一旦下押すこととなった。当時の安値は62カ月線がサポートし、その後数カ月に渡ってドル/円の下値を支え続けた。同年11月の安値にあつては、62カ月線に加えて月足「雲」上限も下値をガッチリ支える役割を果たした。

終値が重要という点では、2013年5月と以降数カ月の動きが一つの参考になる。当時、ドル円は月足「雲」上限を一旦上抜けるも、終値では上抜けられない状態が暫く続いた。また、同年11月に月足「雲」上限を終値で上抜けた後は、一段の上昇に弾みがつくこととなったのだ。

仮に今月の終値が月足「雲」上限を下抜ければ、その後暫くは同水準が上値抵抗となる可能性もあると見られる。とはいえ、足下の米国のファンダメンタルズや金融政策の方向性をあらためて考えれば、ドルが下値のメドのつかない状態を続けることも考えにくい。米大統領の口先介入にも限界があるだろうし、地政学的リスクというものもいずれは収束に向かうはずである。

そもそも米大統領は米景気の拡大を望んでいないのか。3.5~4%の成長を目指すというのは嘘っぱちか。大胆な税制改革や大規模なインフラ投資もすでに諦めてしまったのか。景気が腰折れして低金利とドル安が同時進行すればそれで満足か。もちろん、そんなことはあり得ない。

(04月13日 12:35)